

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産、地場産の供給拡大

その他

# 富士山麓堆肥利用促進協議会（静岡県富士宮市・富士市・沼津市・長泉町）



茶の畝間に10aあたり年間約2トン散布する（化学肥料の4～5倍）  
この堆肥散布の実証では、約220kgを投入し約53m進行した。

【背景】「みどりの食料システム戦略」に基づく環境負荷低減の観点、肥料価格高騰や需要に応じた茶の有機栽培への転換の必要性から堆肥の利活用が高まっている。

【取組】 グリーンな栽培体系への転換サポート（令和4年度～令和6年度実証）

【令和4年度の内容】

約10アールの堆肥実証圃を4か所設けて、メーカー3社の散布機による3回の実演会、2回の検討会を行い課題解決を目指し、有機栽培マニュアルや堆肥利活用パンフレットを作成。

【取組主体】 富士宮市、富士市、沼津市、長泉町の畜産農家と茶農家、富士農林事務所、東部農林事務所、JAふじ伊豆、富士開拓農協、堆肥散布機械メーカー



## ■ 取組の特徴ときっかけ

富士山麓地域は県下最大の酪農業地域であり、経営体の規模拡大に伴い堆肥処理が大きな課題となっている。

## ■ 取組のメリット

昨今の肥料価格の高騰は、茶生産者の経営を圧迫しており、茶生産者の堆肥活用を促進し、畜産堆肥の地域内流通を図ることで、畜産・茶農家の連携による地域農業の発展と環境負荷低減に取り組む。

## ■ 課題になっていること

堆肥ストック場所の確保、効率的で省力的な茶園への投入方法、傾斜面でも安全な散布方法、堆肥のペレット化（含水率50～60%を20%）、畜産農家と茶農家の調整役、有機JAS認証に対応した堆肥生産、肥料高騰対策としての堆肥の利活用方法の検討など



富士山麓堆肥利用促進協議会との意見交換とほ場視察  
（ヤマサン渡辺製茶の茶園 令和4年10月20日）  
（左）渡辺会長  
（右）中野代表（村山有機組合、酪農家）

右から  
仙波果樹・茶グループ長（本省農産局）  
谷次長（関東農政局）  
秋山地方参事官（関東農政局静岡県拠点）  
片岡農政調整官（関東農政局園芸特産課）



事務所所在地（事務局）静岡県富士農林事務所

電話番号 0545-65-2193 HPアドレス <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/fujinorin/index.html>